



SOLUTIONS

概要

技術的課題：

広域ストレージネットワークサービスである「WIDE SAN」の検証およびデモンストレーション施設として、大規模なSANを構築する必要があった。特に、顧客へ信頼感を与えるため、ストレージやFCスイッチの設備が重要であると考えられた

ソリューション：

主要ベンダー数社ずつの製品からなるサーバーおよびストレージを、BrocadeのFCスイッチSilkWorm 12000で接続してSANを構成。そのSANを、FC-IPゲートウェイやイーサネットL2スイッチによってNTTコミュニケーションズのギガビット級WANに接続、遠距離で折り返して仮想サイト間を結ぶ

成果：

- ・豊富な接続実績のあるSilkWorm 12000により、SANや仮想サイト間の接続検証作業も特にトラブルなく順調に終わることができた
- ・今後の新プロトコルへの対応検証も、SilkWorm 12000の対応によって進められるようになった

NTTコミュニケーションズ株式会社では、同社が提供する広域ストレージネットワークサービスである「WIDE SAN」の検証設備にSilkWorm 12000を導入しています。その検証設備である汐留ラボでは、FC-IPゲートウェイなどの設備を含めた「WIDE SAN」サービスの提供のため、主要ベンダーのサーバーやストレージとの接続検証を行い、順調に作業を終えています。さらに同サイトは、顧客へのデモンストレーションや、顧客自身による個別検証にも用いられます。

広域ストレージネットワークサービスのラボでSilkWorm 12000を導入し検証やデモに活用

NTTコミュニケーションズでは、リスクマネジメントを実現したいという企業のニーズに応えるため、ディザスタ・リカバリー（DR）の観点からビジネスの継続性を高めるべく、企業向け広域ストレージネットワークサービスである「WIDE SAN」を提供しています。

このサービスは、顧客企業の拠点を広域ネットワークで結ぶという点では同社が従来から提供しているサービスに似ていますが、SANを広域ネットワーク化するため、IPネットワーク経由でファイバーチャネル（FC）プロトコルを転送する仕組みまでをサービス対象としています。具体的には、顧客サイトのSANに接続されたFC-IPゲートウェイ装置や、IP網への接続を担うイーサネットL2スイッチを、回線とともに提供しているのです。

NTTコミュニケーションズでは、顧客に高度なサービスを提供するため、SAN環境の検証設備を設置、顧客へのデモンストレーションや顧客自身による個別検証作業、さらに将来の新プロトコルへの対応検証などの作業を実施しています。

DR環境の検証用大規模SAN設備にSilkWorm 12000を採用

「WIDE SAN」のサービス開始に先立ち、9月に「WIDE SAN」のための検証プロジェクトが開始されました。Brocade SilkWorm 3800を中心としたSANに各社のサーバーやストレージを接続したSANを2つ設置し、それを仮想サイトとして同社のギガビット回線に接続、長距離で折り返した環境を用意して検証作業が進められました。

検証作業は順調に進み、NTTコミュニケーションズでは2002年11月に「WIDE SAN」の提供を開始しました。サービス開始後、検証設備はデモンストレーションや顧客の環境を持ち込んだ個別検証作業などに用いられていましたが、2003年8月に「WIDE SAN」関連部署が同社の竹橋ビルから汐留シティセンター内へ移転する際、「WIDE SAN」汐留ラボとして設備の増強が行われていました。増強の主なポイントは2つです。一つは、回線が2系統になり、総延長約200kmのギガウェイと、総延長約800kmのフレックス・ギガウェイの2回線で検証を行えるようになったことです。そしてもう一つは、SilkWorm 3800に加えSilkWorm 12000をFCスイッチに採用したことです。



WIDE SAN



SilkWorm 12000の採用は、検証設備としても、デモ設備としても重要なポイントでした。まず、国内で構築されるSANの規模が拡大し、より大きなSANによる検証が求められていました。顧客サイトにもSilkWorm 12000の採用が進みつつあることも影響を与えていたと思われます。さらに、SilkWorm 12000では今後登場してくる新しいインターフェースへの対応も予定されており、将来的には「WIDE SAN」でも対応していく必要があるという考えもありました。

最先端のストレージネットワーキング

ソリューション開発にSilkWorm 12000が協力

NTTコミュニケーションズ ITマネジメント
サービス事業部 サービス開発部 プロダクト

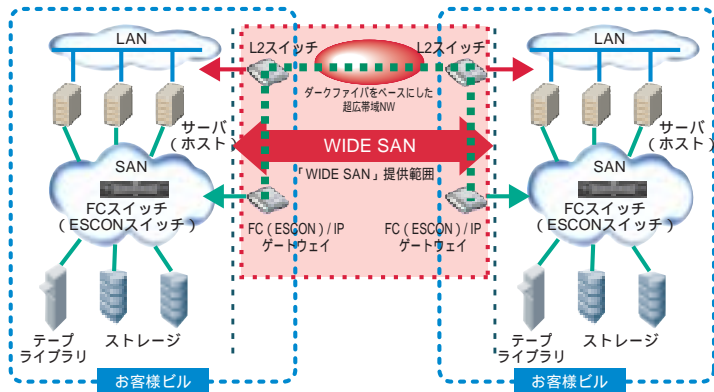
開発部門の種子野亮氏は、「DRを行おうという顧客は、非常に大規模なSANを構築しています。SilkWorm 3800を用いていた以前の検証環境と整合性を保ちつつ、より大規模なSANを構築するためには、SilkWorm 12000の採用は当然の流れと言えます。運用などの使い勝手はほぼ同様ですし、検証の際に接続するストレージについても接続実績のあるものばかりですから、安心して作業できました。「WIDE SAN」は事前検証済みサービスであることがアドバンテージですから、FC-SAN環境においてデファクトであるBrocade製品の採用は検証作業において不可欠なものです」と語っています。

その後、汐留ラボの新たな環境による検証作業は順調に進められ、一通りの作業を完了し

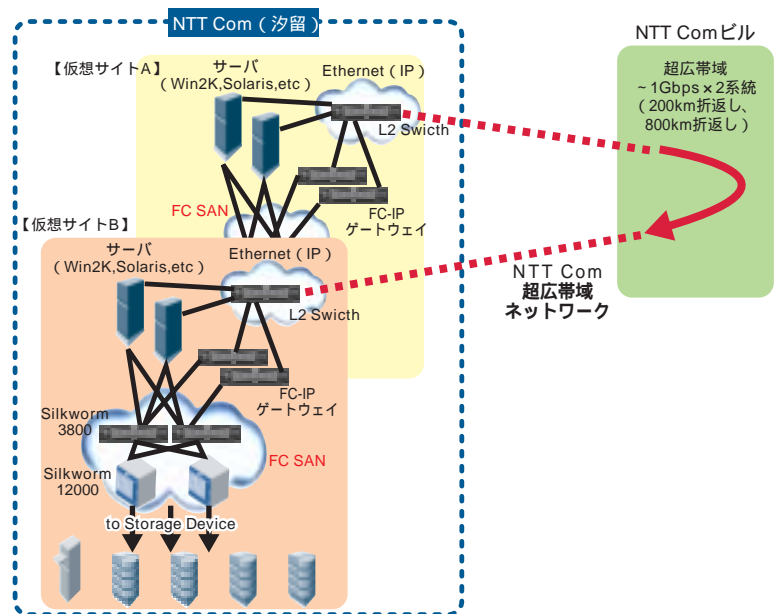
ています。現在では、顧客へのデモンストレーションや個別検証に用いられています。今後は、新しいサーバーやストレージが登場すればその検証を行い、またiSCSIなど新しく登場してきたプロトコルの検証も進めていく方針です。

「豊富な検証実績のあるSilkWorm 12000を利用した検証作業については特にトラブルもありませんでした。今後も、最先端のストレージネットワーキングソリューションを、どんどん作り出していきたい」と種子野氏は言います。Brocadeでも、新しい環境に対しSilkWorm 12000の対応を進めていくことで、NTTコミュニケーションズの「WIDE SAN」サービス拡大に協力していきます。

NTTコミュニケーションズの「WIDE SAN」サービス範囲



「WIDE SAN」検証設備概要



© 2004 Brocade Communications Systems, Incorporated. All rights reserved. GA-CS-xxx-00-J

Brocade, SilkWorm, Extended Fabrics, Remote Switch, Fabric Aware, Fabric OS, Fabric Watch, QuickLoop, SOLUTIONware, WEB TOOLS, Zoningは、米国またはその他の国におけるBrocade Communications Systems, Inc.の商標または登録商標です。その他のブランド、製品名、サービス名は各所有者の製品またはサービスを示す商標、登録商標、サービスマークである場合があります。

注意: 本ドキュメントは情報提供のみを目的としており、Brocadeが提供しているか、今後提供する機器、機器の機能、サービスに関する明示的、暗示的な保証を行うものではありません。Brocadeは、本ドキュメントをいつでも予告なく変更する権利を留保します。また、本ドキュメントの使用に関しては一切責任を負いません。本ドキュメントでは、現在利用することのできない機能について説明している可能性があります。機能や製品の入手可能性については、Brocadeのセールスオフィスまでお問い合わせください。

本ドキュメント中の技術データを輸出する際には、アメリカ合衆国政府の輸出許可が必要になる場合があります。内容について予告なく変更する場合があります。